

甲奴郷土史だより

第26号

2022年5月

甲奴郷土史
研究会発行



古文書を読む ≪ 安堵状 ≫

古文書とは、過去の文書で、史実を示す史料の一つ。文書や記録は必ず第一人者(書き手)が、何かの用件や考えを第二人者(相手)に伝えたものであるが、その事実を証明する第二の文書によって、さらにその事実を確かめられる。公文書は一つの形式をもつが、私文書には形式がなく、そこに証明される事実は千差万別で、真偽を区別するには古文書学の知識が必要になる。

古文書の種類としては、

●公式様文書

詔書・勅旨・勅書 天皇の勅命を下達する文書
符・移・牒・解(ふい・ちよう・げ) 役所が出す文書



●公家様文書

宣旨・官宣旨 詔書・勅書の手続きを簡略化した勅命文書と、宣旨より簡略した文書

庁宣 ちようせん

中央政府から発せられる命令は国司に伝えられる。在京の国司が任国に出す文書が庁宣である。

綸旨 りんじ

弁官や蔵人が天皇の意思を受けて出す文書。内容は勅命だが、形式的には弁官や蔵人が発する文書形式を取る。

●武家様文書

下文 くだしごみ

将軍が将軍家の政所が発給する最も格式の高い文書。所領の安堵状に多い。

下知状 げちじょう

下文と御教書の折衷様式。裁決文書に多い。

御教書 みぎょうしょ

将軍が一般の政務などで出す伝達用の文書。政所など幕府の機関が出す同形式の文書を奉書と言った。発給者が直接出す文書。差出人が自署する。

直状

印判状 いんぱんじょう

花押の代わりに判を押しした文書。形式的には直状と同じだが、

格式は、下。

●上申文書

解状・訴陳状

役所間だけのやり取りだった解状を個人間でも行ったもの。
下位者から上位へ意思を述べる文書。

請文・請取状

将来、権利、金品等を付与することを約束した文書。転じて
命を請けたことを報告する文書。武家文書では後者の意味が
強い。

起請文

宣誓書。

●証書類

譲状

財産を譲渡する際、譲渡内容を記した文書。

借用状

借主が貸主に確かに金品等を借りたことを認めた文書。債務
が消滅すると借主に渡される。

売権

財産を売買したことを認め、買主に権利を譲渡したことを
売り手が認めた文書。

といったものが挙げられる。

【用語説明】

・**弁官**（べんかん）……律令の官制の一つ。「おおもものつかさ」といい、太政官に直属した事務局で、

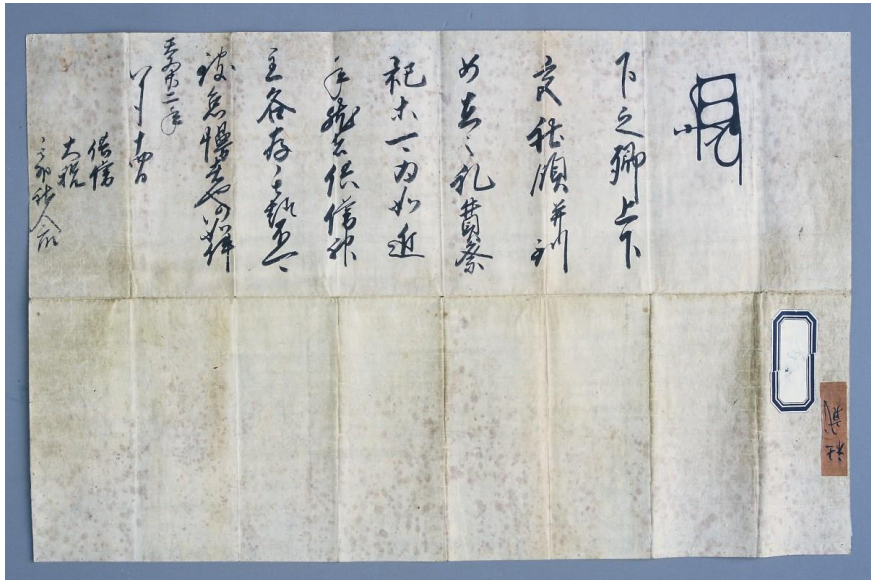
下級機関からの上申文書の受理および太政官への申達や命令の下達の文書
の発給事務を統括した行政事務の執行機関。

・**藏人**……平安初期に設置された令外官の一つ。本来皇室の用具や文書を預かる役人の意。

今回は、これらの中の下文にあたる『安堵状』を紹介する。

『安堵状』とは、中世・近世の武士社会において主人が家臣の所領の知行を改めて確認
（安堵）した文書をいう。知行は、封建時代に武士に支給された土地または俸禄のことで、
安堵状により法律上の保護を受けることができた。鎌倉幕府では、下文、下知状、御教書
を用い、安堵の下文のように称せられた。惣領が一括して所領を知行するときは安堵の下
文を惣領へ下し、分割知行した場合は嫡子へは下文を、庶子分には下知状を用いた。
のち嘉元年間（十四世紀はじめ）にこの区別をやめて、両者とも申請者の提出した譲状の
余白に執権・連署が安堵した旨を記し、署判して当該者へ返付する方法になった。

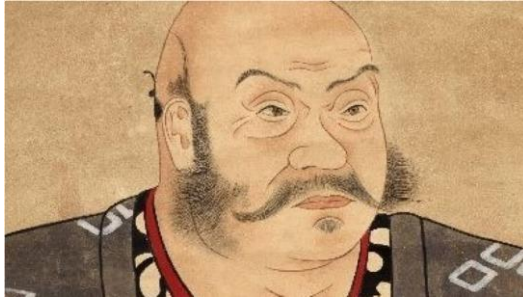
この安堵状は、博物館や図書館、公文書館、大学などに保管されており、武田信玄、豊臣
秀吉、伊達政宗、毛利元就など有名な武将の花押がある安堵状が、インターネットで見る



上の画像は、武田信玄の安堵状である。
この文書は、長野県上田市にある上田市
マルチメディア情報センターに保管されてお
り、国の重要文化財となっている。
甲斐（山梨県）の武田信玄が上田小県地方
を攻め始めたのは天文十七（一五四八）年二
月から。天文二十二（一五五三）年八月五日
信玄は村上義清方が守る、塩田城（上田市
東前山）を攻め落として、ようやく東信濃（
小県や佐久など）を勢力下に治めることが
できた。
写真の文書は、塩田城を落としたあと、し
ばらくこの地にとどまっていたとき下之郷上
下宮（生島足島神社）に、「神社の土地やお
祭りは、今まで通り認めるから、安心して勤
めつように。」と、同社に仕える神官や共僧
に宛てて出した安堵状である。

信玄は同年八月十日、家臣の真田幸隆（上田城を築いた昌幸の父）ほか、上田小県地方の
主な武将に褒美として、土地を与えた。続いて八月十四日下之郷上下宮の神主や供僧に宛
て、この安堵状を出した。

この安堵状に信玄の氏名は書かれていないが、文書の最初に信玄自身の花押が書かれてい
ることからわかる。また、文書は横に二つに折った、折紙の形式になっている。



◆武田信玄 出典：Wikipedia より

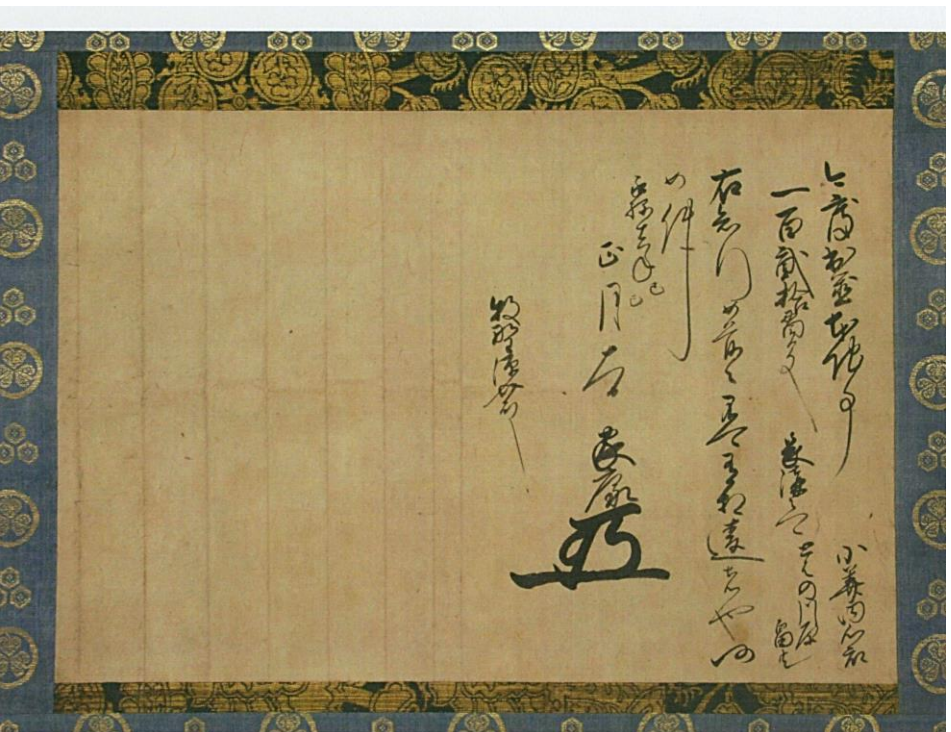


武田信玄の花押
拡大したもの

◆生島足島神社 出典：上田旅より



もう一つ紹介するのは、徳川家康の安堵状である。これは、早稲田大学図書館の所蔵で、詳しい説明や読み下しがなかったので、古文書を勉強されている方に見ていただいた。一部解読できない文字もあるが、解読していただいた文で内容はわかった。



□は解読できなかった文字

【判読文】

今度出置本地事 小算 善提内
 心郷記
 一百貳拾貫文 家溝ハ、とは
 の川原

畠共

右知行如前々不可有相違者也仍
 如件

永禄十二年己巳

正月十一日 家康 花押

牧野涼介殿

【訓読文】

今度 出し置く本地の事

永禄十二年己巳

小算・心郷記

一つ、百二十貫文 家溝候はば

牧野涼介殿

とばの川原

畠共

右知行、前々の如く、相違有る

可からざる者也。仍て

件の如し。



永祿十二(一五六九)年といえは、家康が江戸幕府を開く四年前になる。その時代に家康は遠江国 遠州、現在の静岡県西部にいた。永祿三(一五六〇)年の桶狭間の戦いで今川義元が死去し、静岡県岡崎に戻る。家康は、今川氏の旧臣・犬居城主 天野景貫らが降伏したため、永祿十二年正月に本領の安堵を与え、また新知を与えている。
 今回紹介した『家康の安堵状』は、この時のものである。



◆遠江国地図



◆犬居城 復元模型

《 花押とは 》

自署のかわりに書く記号。印章と区別して書判かきはんともいう。印章と同様に文書に証拠力を与えるもので、個人の表徴として偽作を防ぐため、その作成には種々の工夫が凝らされた。



徳川 家康



豊臣 秀吉



織田 信長



千利休



伊達 政宗

【参考資料】

- ・ウイキペディア
- ・世界大百科事典第二版(コトバンク)
- ・上田旅
- ・Japan
- ・上田市マルチメディア情報センター
- ・早稲田大学図書館 古典籍総合データベース
- ・全国史跡巡りと地形地図

郷土誌「げいびグラフ」から『ああ、懐かしの甲奴・・・』其の七

（株）菁文社さんが発行されていた郷土誌「げいびグラフ」から、甲奴町関連の資料で、掲載させていただいた了承を受けた記事をご紹介しています。

今回は矢野の神祇道を紹介した記事と、カーター元大統領が来町された時の記事をご紹介します。

この二年コロナウイルス感染症予防のため、中止や規模を縮小して行われた須佐神社の祇園祭。いつになったら、以前のような賑やかなお祭りができるようになるのか。寂しい思いをされている方も多いのでは。

今回は平成三（一九九一）年に掲載された、矢野の神祇道について記事を紹介。懐かしい顔もあるのでは。

【ふるさとこの道 矢野の神祇道】

平成三（一九九一）年第五十八号 菁文社「げいびグラフ」より



ふるさとこの道

矢野の神儀道

—古代の陰陽を結ぶ街道—

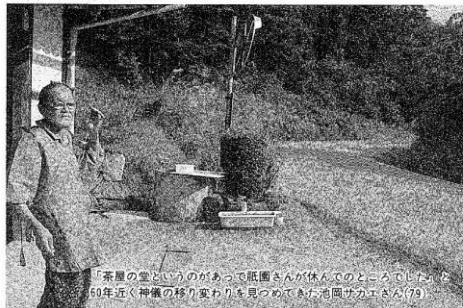
（甲奴郡上下町～甲奴町）



甲奴町小童の須佐神社は、スサノオノミコト=素戔嗚尊を祀り、古来祇園社といわれる。戸手・柄の祇園社と共に備後三祇園として知られ、備北一帯の崇敬を集める大社である。今は7月第3日曜日より3日間が祭日で、昔日の股盛はないが、今も変わらぬものは矢野の神儀である。矢野の神儀は、須佐神社の氏子でない上下町矢野の住民が一戸残らず参加して奉納するもので、古い伝統を保持し、格調のある貴重なものとして、県無形民俗文化財に指定されている。

矢野の神儀の歴史は古く、室亀5年（774）に始まったと伝える。神儀団は集落ごとに片屋・郷（上郷・下郷）・字根・芦尾（芦原・尾田部）の4組の神儀組で構成され、祇園祭りの初日、矢野を出発し約5kmの道を行進して須佐神社に宮上りする。この神儀が行進する道、すなわち県道宇賀矢野線こそ、多くの歴史を秘めた古代の陰陽を結ぶ街道でもある。

国道432号線から西に分かれる宇賀矢野線に沿って矢野温泉を過ぎると、北側の丘陵に矢野生活改善センターがある。この設置にあたり古代の遺構があることが確認



「茶屋の堂」というのがあって祇園さんが休んでのところでして、50年近く神儀の移り変わりを見つめてきた池田サカエさん(79)

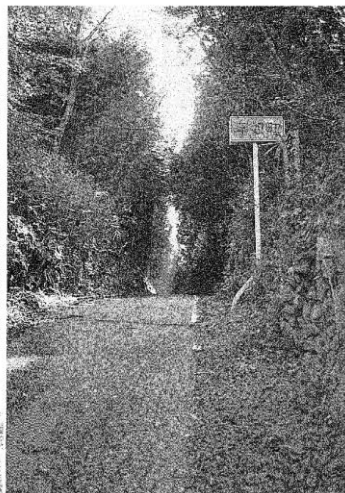
▼どんな濁水時でも濡れることなく大杉の根元から清水が湧き出る祇園水。由来を知らぬ人が飲むと腹痛を起こすというが、なぜか由緒書とコップが置かれている。



だものと古来いわれている。

王堂がササノオノミコトの故事により神儀団の出発する場所であるが、実際は少し上の農協矢野支所前に集合する。現在は片屋組22戸、郷組60戸、芦尾組18戸、宇根組18戸の118戸、昔からの習わしで矢野一円の家は一戸のれなく参加しなければならないことになっており、高齢者世帯が増えた昨今は、およそ3割の家がよそから人を頼んで出ている。

3年前まで郷組の神儀監督を務めていた好永勝一さん(77)は「物心ついた頃から神儀には必ず出よう。終戦後ぐらまでは、3里四方の者は白装束でみんな神儀を拝みに来て、沿道は見物人でびっしりじゃった。先箱が頭にあたってケガ人が出たり、出店の屋根へ屋形がひかかって店がひっくり返っても文句は云わらやせんし…祇園さんあめ言うて横尾(福山)から来て秤りで売る人が名物よ…」と昔の賑わいを懐かしむ。「夏の暑い盛りなので、打って歩く人をウチワであおぎながら行ったり、子供と一緒にゾロゾロと神儀のあとをつけて歩きよった



▲福王峠頂上。昔は狭い山道で、屋形や神儀道具を担いで通るのに難渋したと古老は語っている。



福王峠口からの直前は、幅が200mほど道路が確保されている。

ものです」と奥さんと相づちを打つ。今は目と鼻の先で行われる「あやめ祭り」に人出のほうは押されっぱなし、といったところだ。

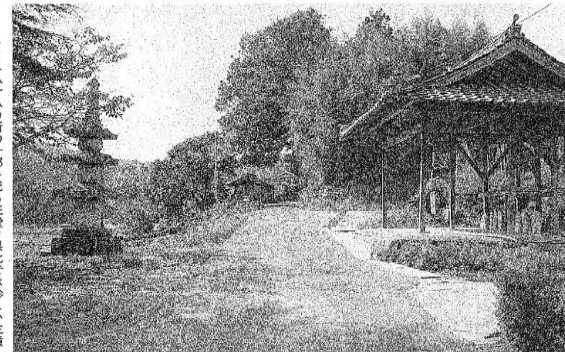
片屋組・郷組・芦尾組は9時半頃集まり、一緒に出発する。郷組の行列は戸数が多いだけに豪華で、屋形の他に大神楽太鼓・目付け槍・羽熊・先箱・大笠・獅子・ほら貝・笛吹き……などなど大名行列を模しており、宿入り行事と呼ばれる。

郷地を離れ、宇根の谷間に入れば「茶屋」という地名が残る。昔は茶屋の堂があり、神儀団の最初の休憩場所として、30分くらい鉦や太鼓を打ち鳴らしていた。その近く路傍の大杉の下に清水の湧き出るところがあり、ササノオノミコトがこの水を飲まれ休息されたと伝えられる。世に祇園水として知られるが、この故事を知る人がこの水を飲むと腹痛を起こすといわれる。祇園祭りの直前、小童より神職が来て「汲取祭」を行い、この神水を持ち帰り、大御前という大神輿と3台の神輿を清めるのが慣例となっている。

茶屋の堂から800mで福王峠(高鉢峠)にさしかかる。



▶ミミ八十八ヶ所の一部を祀る王堂と東北では珍しい三重の層塔。昔は大きな松があり絵になる風景だったが、今は百メートルほど先方の農協支所前から出発する。神儀



され、発掘調査が行われた結果、弥生時代の円形住居跡2軒、古墳時代の住居跡1軒、平安時代の建物跡1軒と同時代の瓦葺り遺構があり、多くの出土品と共に軒丸瓦や軒平瓦・鬼瓦を含む古瓦類が出土した。その時の調査報告書には「瓦を伴う当時の遺構として考えられるのは国府などの官衙跡、寺院跡または瓦窯の跡である。そのうち官衙跡の可能性はない。当時の甲奴郡の中において位置的に偏しているうえ、陰陽を結ぶ通路が離れているなどの条件が整っておらず、この可能性は薄いと言わざるを得ない」としている。しかし、この結論は納得し難く、性急な断定と言えよう。なぜなら、矢野は甲奴郡三郷の一として「和名抄」に表れ、矢野郷の中心が本矢野といわれる今の矢野と思われ、築えた土地であるので、官衙(役所)があっても不思議ではない。

旧上下村が政治・経済の要衝として発展するに及び、陰陽を結ぶ街道に変わったもので、ササノオノミコト・柿本人麻呂の伝説などを伝える矢野の道こそ古代の重要な道であったことを、この遺構は証するものである。

このセンター前より少し行くと大型の堂がある。四方吹き抜けで床板はなく、床の端に数体の石仏がある。こ

の堂は王堂と呼ばれ、神代の昔、ササノオノミコトは備後に上陸し、鞍・戸手を経て芦田川沿いに矢野に至り、しばらくこの地に逗留されたといわれる。

王堂から南西には杉の古木に囲まれた矢野八幡神社が田の中に突き出た丘陵の上に見える。地形上この丘陵は舟山と称せられ、古墳ではないかといわれている。その正面は川で、今は水路として利用されているが、両側は堀を廻らしている。もし古墳であるならば、矢野の歴史と古道の街道としての矢野の道を確認するものにするであろう。

八幡神社と同じ方角に見える山は、向かって左より女鹿山・高鉢山・大仙山である。女鹿山は甲山町青近の男鹿山と共に、富島の雌雄の鹿がはるばるこの山に来て、狩人に射られて死んだという伝説の山である。高鉢山頂上は戦国時代の古城跡がある。大仙山は為山といわれていたが、江戸時代末期に牛馬守護神の大仙神が祀られてから大仙山と呼ばれるようになった。奈良時代の歌人、柿本人麻呂が「万葉集」に残した歌の中に「妻こむる矢野の神山露霜に」ほほそめたり散りまく惜しも」と詠んでいる。この歌は石見へ下向の途次、この為山を詠ん



* 表題の下にある地図を拡大したもの



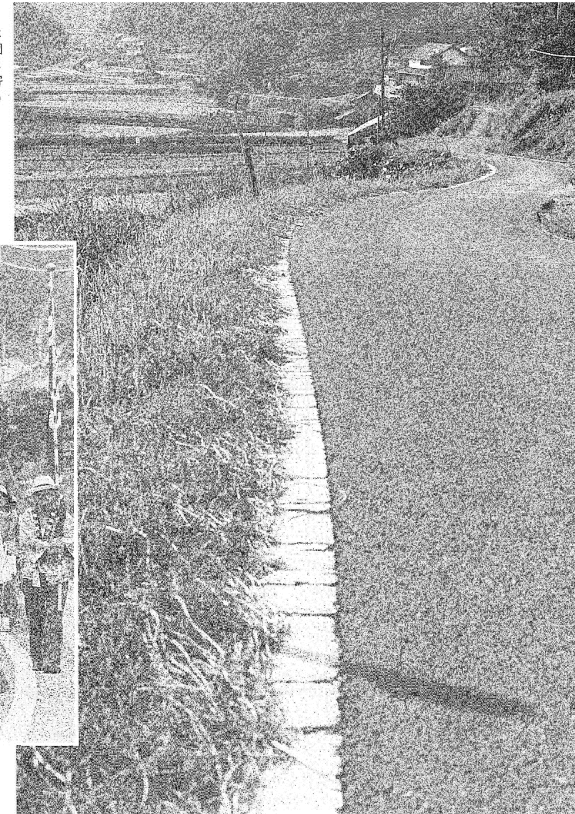
* 現在の県道宇賀矢野線の市境



* 祇園水石碑と祇園水



▶福王峠から小童方面に下る。左上に見えるのが「小さな峠」で、神儀団最後の休息地だったが、現在はここへ車で集結する。この辺りのお年寄りは、神儀が車で通る時には今でも家の中から手を合わせるという。



▲行列を組んで宮上りする矢野の神儀団。

福王峠は矢野と小童の村境で、ここで宇根組と合流する。峠のすぐふもとにある福品君朗さん(55)宅の前庭は宇根組の集合場所。「祇園さんの2日前にここへ集まって屋形をこしらえ、本番にはここから出発し、帰ってからここで飲んです」と福品さん。4組揃った神儀団は峠の頂上でひとしきり鉦・太鼓を打ち鳴らす。7月1日、須佐神社では「忌串刺祭」を行い、悪霊が入り来るのを防ぐため、四方の村境に櫛の枝を立てるが、福王峠だけは立てない。スサノオノミコトが小童に入られた道筋で、神儀の通過する道である故である。

神儀団の行列の順番は、片屋組が先頭を切り、宇根組、郷組、芦尾組と続く。この宮上りの順番についても昔はよくけんかをしていたそうだ。文化8年(1811)の祇園祭りの折り、郷組が庄屋の家の前で屋形を練り回していたところ、かついでいた棒が折れてしまった。宮上りを取りやめるわけにはいかず、修理に手間どっていたら後から来ていた宇根組が先に行ってしまったという逸話が残っており、今の順番が定着している。

福王峠を下れば小童の峠という集落に出る。峠の集落

を行けば「小さな峠」があり、神儀団最後の休息場所となっており、11時頃ここで少し早目の昼食をとる。

神儀団は永年、矢野から行列を組んで歩いてきたが、戦後の過疎化による若者の減少と車社会の到来により、昭和30年頃から各組は自動車にてこの峠に集結するようになった。それは何人も咎めることのできない時代の要求である。

しかし、ここから約1kmの道を神儀団は行列を整え、正午前須佐神社に宮上りするのである。参詣の善男善女の雑踏する時で、神儀団は神儀練りをしながら、一糸乱れぬ統列の下に宮入りする様は、祇園祭りのハイライトにふさわしい。神儀団の人々を「矢野の神儀師」と敬称するも当然といえる。

古代の陰陽を結ぶ街道、歴史と伝統を秘めた矢野の神儀道(県道宇賀矢野線)は、小童を南北に横断し、終点宇賀農協支所前に至る。そしてこの道は宇賀峠を越えて吉舎に入り、三次から山陰に通じるのである。

(上下町文化財保護委員 田中重雄)

【カーターさんがやって来た】

平成三（一九九二）年第五十八号 傑書文社「げいびグラフ」より

この記事は、初めてカーター元大統領が甲奴町を訪問された時の記事。

この時は、奥様のロザリンさんは一緒ではなく、お一人での来町。正願寺で鐘をつかれ、記念樹を植えられた様子と、当時の町民の歓迎ぶりがわかる記事である。

今年、アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、カーター・センターの日本庭園に鐘楼堂を建てる計画がある。市民などから寄付を募り、完成模型を支所に展示してあるが、去る四月十七日には、建設に携わる近藤建設倉庫にて完成品のお披露目があり、新聞やケーブルテレビなどで紹介された。お披露目された鐘楼堂をまた解体し、船便にてアメリカへ送るそうだ。

カーター元大統領も今年九十八歳になられる。ご高齢であり、また持病もおありになるので、ぜひとも完成した鐘楼堂を見ていただき、一日でも長くお元気で過ごされることを祈るばかりだ。

▼一般町民とこやかに握手。



カーターさんが わんが 来た

(甲奴郡甲奴町)



▶山里のお寺は時ならぬ大騒動。



▲正願寺境内に町の木「紅梅」を植樹。



住職から説明を受け、あと、慣れない手つきで鐘をつくカーターさん。1回つくと毎に大きな拍手がわき起こった。

秋晴れの好天に恵まれた10月21日、ジミー・カーター元アメリカ大統領が甲奴町にやって来た。同町小童の曹洞宗正願寺にあったつり鐘が縁で来町したもので、沿道には日米の国旗が並び、子供からお年寄りまで一目カーターさんを見ようと正願寺や弘法山は時ならぬ人出、町内はこの日、歓迎ムード一色に染まった。

正願寺のつり鐘は、第2次大戦末期、呉の海軍工廠へ供出、それが巡りめぐって現在はジョージア州アトランタ市のカーターセンターに「平和のシンボル・ヒロシマの鐘」として保存されている。このことを知った甲奴町がカーターさんに「つり鐘の古里をぜひ訪れて」と誘ったところ「訪日の際にはぜひ鐘のルーツ甲奴町を訪ねたい」との返事があり、町始まって以来のVIP(要人)の来町が実現した。

京都から新幹線で福山へ、そして車で甲奴町入りしたカーターさんは、正午前、広島県知事や町長他500人の町民が出迎える正願寺に到着した。まず、7月に新調されたばかりの2代目の鐘を3度つき、次に「友愛の鐘記念碑」の除幕、町の花「紅梅」を植樹した。この間わずか15分あまりで正願寺をあとにした。続いて弘法山いこいの森に移動、歓迎式典では「この鐘は世界平和への願いと日米の友好を象徴している。鐘の故郷を訪れた経験は一生忘れない」とあいさつ、昼食は立食パーティー形式で、ステージでは神楽などの郷土芸能も披露された。弘法山には町の人口を上回る4000人がつめかけ、カーターさんが動くたびにソロソロと大移動。じこやかに手を振り、町民と握手をする気さくな人柄に「とつてもやさしそう」と口々に言う声が聞かれた。

最後の記者会見が終わると、さっそく車に乗り込み甲奴町をあとに、のどかな山村を騒がせたカーターフィーバーは2時間の幕を閉じ、夢のように過ぎ去った。

甲奴の堂さん・申文堂 矢原



弘法山大山古墳群の入り口の道路向かいに、堂さんがある。この堂さんは『申文堂』という名前で、弘法大師縁の堂さんである。

堂さんには由緒を書いた看板があり、

『文化十年弘法大師様が上下町深江方面より登山ご来光され頂上に立たれ町内を遠望一番高い山から眺められ弘法山と名付けられた。下降しその麓に本郷矢原仁吾集落があり、ここに立ち寄られ住民は大師様を生き仏と仰ぎ尊び堂を建て石造を造って奉納地域の守護仏と信仰崇拜し長寿祈願の由来がある。』

再建 平成十年四月吉日 世話人会』

と墨書にてある。カーター線ができるにあたって移築されたようであるが、昔から大切にされてきたことがわかる。

弘法大師が広めた真言宗のお経『南無大師遍照金剛』を書いて貼っており、線香・蠟燭立ても置いてある。

弘法山の名前の由来につながる堂さんであり、地域の人の祈りの場であるこの堂さんは、これからずっと守られていつてほしい。



この堂さんはほんの少し前まで木々が生い茂り、日を追うことにどんどん木々に埋もれて見えなくなりかけていた。

そんな時、鬱蒼とした木々がどんどん切られ、堂さんの周りはすっかり明るくなった。今では気持ちよくお参りもできる。

この堂さんを見違えるほどきれいにしてくださったのは、郷土史研究会会員の明賀 宏さん。ミニのシヨベルカーなどを駆使して、数日をかけて作業された。

通勤でこの道を通るたび、どんどん見えなくなる堂さんが気になっていたが、きれいになった姿をみると嬉しくて、心のなかで『やったー！』と万歳したくなった。

こうめ 思い出アルバム

この写真は、昭和三十九年頃の結婚式の様子を撮ったものである。この頃は、結婚式は家で執り行われていた。付き合ひのある家や親戚の主人が招かれ、結婚式は家に嫁や婿を迎え入れる儀式という意味合いが強く、「祝言」と呼ばれた。家を守り、次の世代に引き継ぐために結婚は重要だったので、結婚相手の決定には親の意向に沿うことが、昭和三十年ごろまでは当たり前と考えられていた。

現在は、家で結婚式を行ったり、結婚相手も親の意向で決めるということも聞かなくな

た。

人と人ではなく、
家と家の結婚であつ
たとしても、新しい
スタートを切る二人
にとって、この上ない
幸せな光景である
ことには間違いない。



古城址探訪 神辺城



前号で水野勝成と福山城について紹介した。この勝成が長い年月の放浪の後、入城した城が神辺城である。

神辺城は別名麓城・村尾城・楓山城・黄(紅)葉山城・道上城などと呼ばれ、浅山備前守景連が守護職になった建武二(一三三五)年に創築されたという。永禄七(一五六四)年には、毛利元就の七男元康が入城。福島正則が広島入城後は三原・神辺城を家老の福島重治に預けていたが、元和五(一六一九)年に水野勝成が入城した。

勝成は翌年すでに山城の不便さと将来の展望をもって福山常興寺山の新城築造に着手した。水野勝成が元和八(一六二二)年、福山城移転に際して、神辺城の一部を移築したため、現在はずかぬに城址を残すのみである。



【参考資料】

- ・山陽の山城 小学館
- ・Wikipedia
- ・城郭放浪記

甲奴の石造物紀行 Ⅱ 本郷・矢原Ⅱ



カーター球場の前に広がる田んぼのなかに、現在休耕田となっている田んぼがある。その畔に二つ並んで五輪塔が立っている。草が伸びれば、田んぼの持ち主が草刈りをされ、管理されていくことがわかる。

この五輪塔はいつものものなのか風化しており、確認ができない。ただ、ずっと昔からそこに、またはカーター線を整備する際に移されたのかもしれないが、変わってく甲奴を見つけて来たのだろう。

事務局より

- ・会員募集中です。ご紹介ください。
- ・会の運営や研修内容について、ご意見やご質問何でも結構です。でお聞かせください。
- ・昔の話や地区の行事など、ご寄稿・お聞かせください。
- ・古い写真や資料等がありましたら、お知らせください。
- ・「甲奴郷土史だより」へ掲載していきま。
- ・出品物につきましては、責任を持って返却しますので、ご連絡をお願いいたします。

連絡先 鶴本 節子(カーターセンター)

☎〇八四七・六七・三五三五

